

## 2) 代表的な種の全国の分布状況

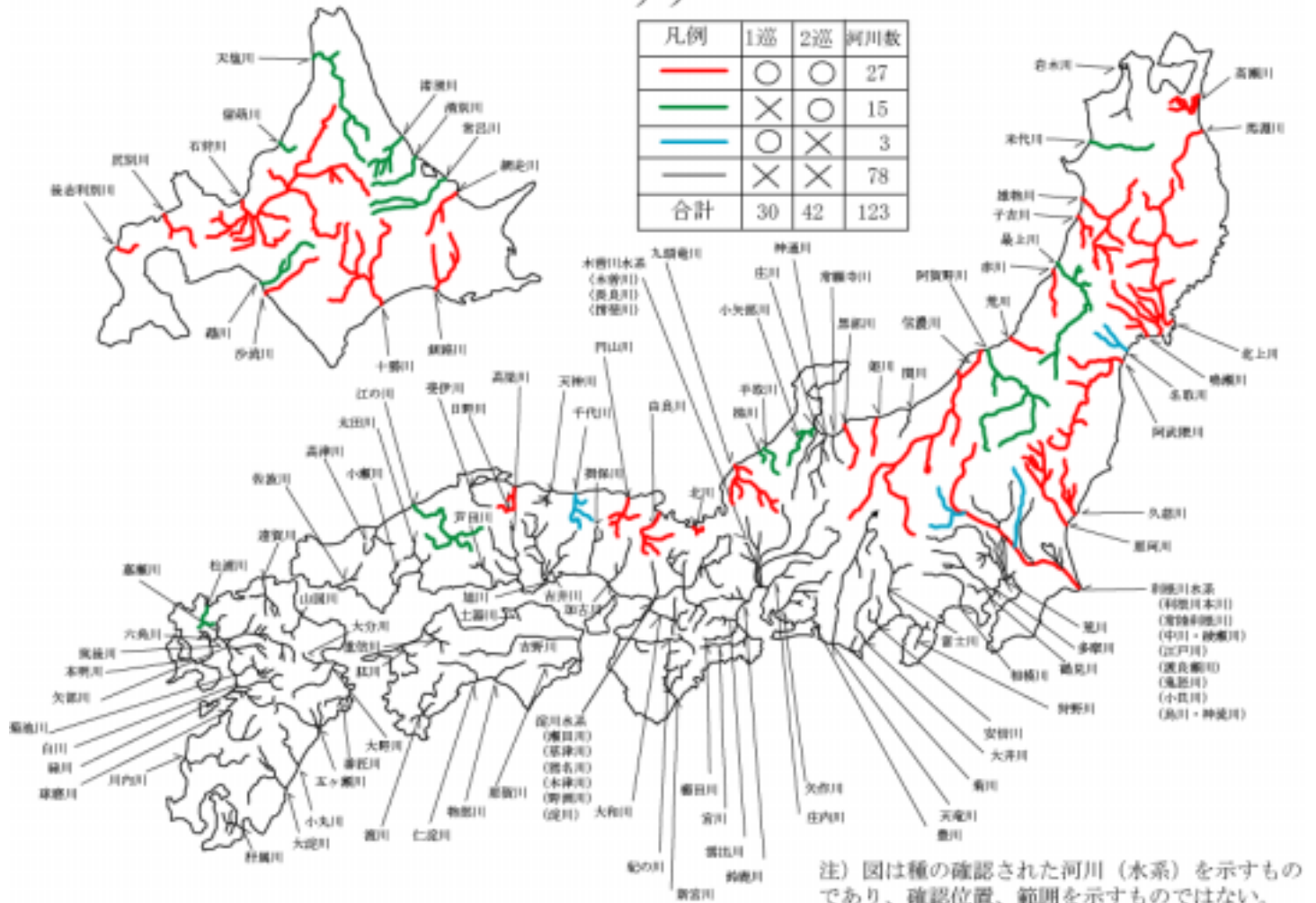
### 【サケの分布状況】

北海道の全河川、日本海側では本州から九州の松浦川に至るまで、太平洋では東北から利根川に至るまでの河川で確認

東日本の食文化を代表する魚種であるサケは、母川回帰（生まれた河川に帰って来る性質）を行うこと等から、河川でのシンボリック的存在として取り上げられる種でもあります。

河川水辺の国勢調査では、北海道の全河川、日本海側では本州から九州の松浦川に至るまで、太平洋では東北から利根川に至るまでの河川で確認されています。記録によれば、日本海側に流れる河川では、九州北部でもしばしばサケが遡上することが知られています。河川水辺の国勢調査結果では、日本海側の河川の中で中国、九州での確認が少ない傾向がみられました。

サケ







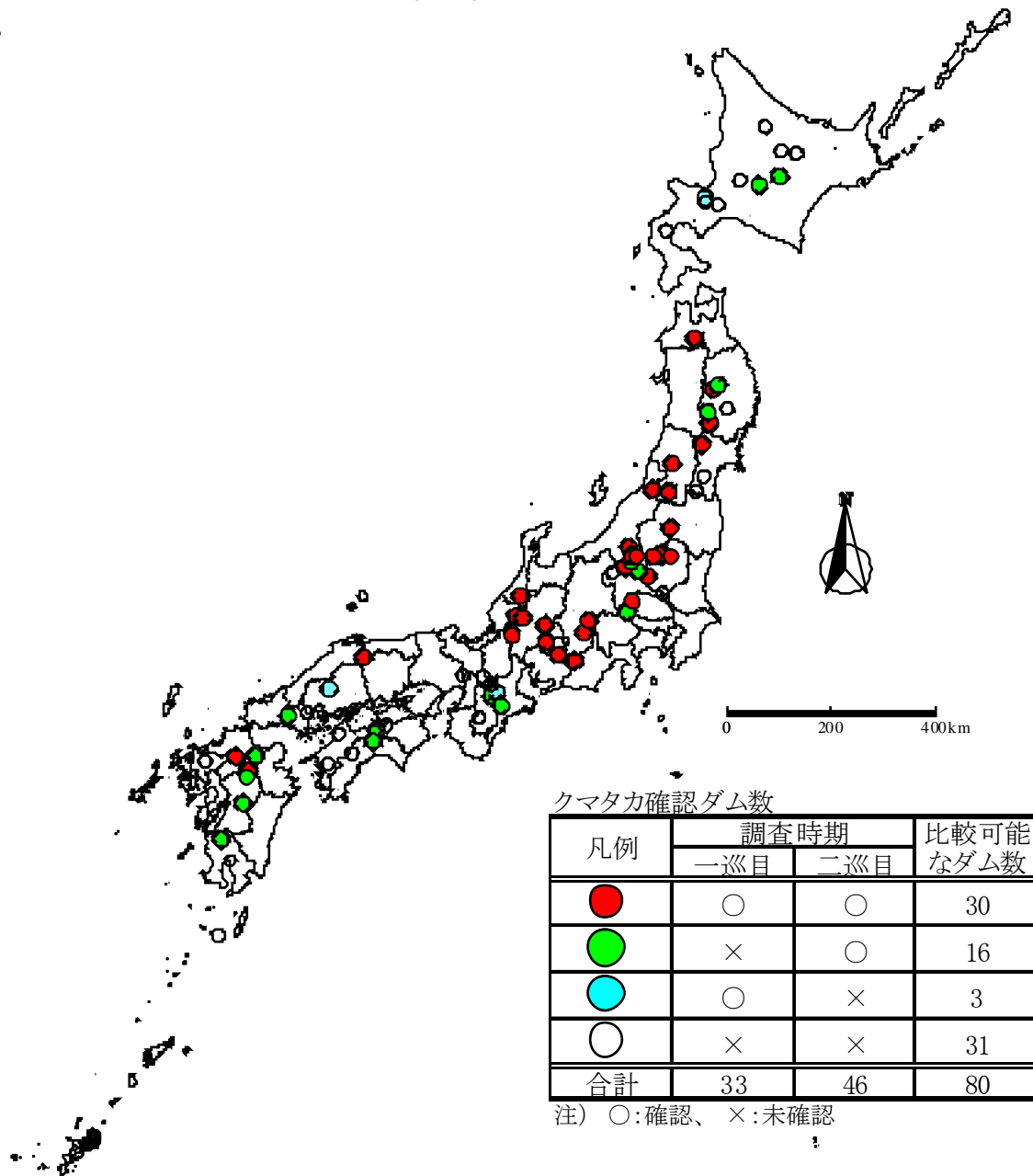
## 【クマタカの分布状況】

**半数以上のダムで、クマタカの生息を確認。**

食物連鎖の上位に位置する生物種の生息状況が、下位に位置する生物を含めた地域の生態系の指標となるという観点から、ダム湖周辺環境における生態系の高次消費者である猛禽類のクマタカの確認状況を整理しました。

クマタカは環境庁のレッドリストで絶滅危惧 B類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）に指定されており、自然環境を保全する上でしばしば注目されている種です。ノウサギなどの中型哺乳類やヘビ類、他の鳥類を主な餌としているため、これらの餌となる動物が生息する環境が残されている必要があります。

二巡目調査が実施された80ダムのうち、クマタカは半数以上の46ダムで確認されました。





## 【ヒグマ・ツキノワグマの分布状況】

中部以東のほとんどのダムでクマの生息を確認。

北海道に生息するヒグマ、本州以南に生息するツキノワグマなどの大型哺乳類は、行動圏が広く、木の芽や木の実、アリやハチなどの昆虫類などを多量に採食するため、まとまりのある自然林を必要とし、ダム湖周辺の森林環境の豊かさを表す指標として挙げられます。

二巡目調査の結果、元々これらが生息しない沖縄のダムを除いた76ダムのうち、約半数の36ダムでクマ（ヒグマ・ツキノワグマ）が確認されました。

また、分布状況を見ると、ヒグマは本来の分布地である北海道で、ツキノワグマは東北、関東、北陸、中部のダム周辺で確認されており、近畿以西のダム周辺では確認されていません。

